令和６年度　学校自己評価表

学校教育目標	向学の気風あふれる活気に満ちた学校づくりを通して、学力・情操・身体の調和ある発達を図り、将来の地域社会を担い、国際社会の平和と発展に寄与できる人間を育成する。

中・長期目標	I.　生徒の実態に即した授業を実施し、主体的な取り組みを促すことで自ら課題を解決する力を養い、生徒一人ひとりの自己実現を目標とした進路指導を行う。 II.　探究的な学びや国際交流等の活動を通して、幅広く教養を深めるとともに、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を養い、地域や国際社会のリーダーとして活躍できる人間を育成する。 III. 学友会活動・班活動・清掃活動等を通して、自主的に考え、他者と協力して行動できる生徒を育成する。 IV.　人権意識を涵養し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりを推進する。 V.　交通安全・交通マナーに対する意識を高め、自転車の安全利用の徹底を図る。

今年度の重点目標 （中・長期目標に即し、今年度特に重点的に取り組む目標）	1.　「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指して授業を実践する。さらに新たな指導方法を検討する。また、ICT を有効に活用した授業展開ならびにオンラインによる授業配信をはじめとする、生徒の学習支援を効果的に行う。「探究的な学び」を日常の授業の中に位置づけつつ、全校で探究活動の充実を図っていく。→Ⅰ、Ⅱ
	2.　生徒の健康状態に留意し、学習と班活動等さまざまな活動の調和がとれた日常生活が送れるよう支援する。整理整頓、清掃の徹底による校内環境整備に努めると共に、交通安全・交通マナーに対する意識を高め、自転車の安全利用を徹底し，交通事故を防止する。また、人権意識を涵養し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりの推進に努める。　→　Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
	3.　国際教養科を中心に、国際交流活動を活発に実施し、他校や他団体と連携して地域貢献および国際貢献につながる活動を行う。国際教養科の特色を活かしながら、全校生徒が、積極的に国際交流に参加できるような環境づくりに努める。　→　Ⅱ

個別評価項目

＜教育活動＞

		評価項目	評価の観点
教育計画	Ⅰ	学習目標の明確化、計画性(教)(生)	・　生徒がシラバス及び日常の授業を通して、目標を持って計画的に学習するように支援できたか。
	評価	授業進度や理解が深まるよう工夫した学習内容などについて、概ね生徒が適切であると回答しており、生徒が目標を持って計画的に学習に取り組む支援をすることができた。	
	Ⅰ	コース選択、科目選択における支援(教)(生)	・　コースや科目の特徴が理解できるような支援をおこない、生徒の適正や進路実現に沿う選択をすることができたか。
	評価	進路選択に合わせた科目選択ができるように科目選択説明会、夢ナビライブ、保護者懇談会など計画的にすすめることができた。	

	Ⅱ	国際交流活動への参加意欲、世界の多様な文化に対する生徒の興味・関心を高め、豊かな国際感覚及び国際社会に貢献できる力の育成 (教)(生)	◎　国際交流活動に参加しようとする意欲、世界の多様な文化に対する興味・関心を高めることができたか。 ◎　国際交流活動を通して、国際社会に対する自身の意見や考えを持ち、それを表現することができたか。 ◎　地域貢献、国際貢献につながる活動を行うことができたか。
	評価	国際教養科では2年生はインドネシア、1年生は台湾からの修学旅行の受け入れや、外務省職員および国際的に活躍する講師による講演を通して国際感覚を身に付ける機会を通して有意義な交流をすることができた。全校生徒対象に海外の日本語学習者とのオンライン交流を複数回行い、世界を身近に感じる機会を提供できた。県企画のつばさプロジェクト、本校企画のオーストラリア語学研修に多くの生徒が積極的に参加し、海外において自分の考えや意見を表現することができた。	
教科・学習指導	Ⅰ	授業方法や授業形態の研究および工夫（教）（生）	◎　生徒の実態や学習環境に即した授業内容を工夫し、基礎基本を定着させるとともに応用力をつけさせる指導ができたか。探究的な学びの授業展開ができたか。電子黒板や ICT の適切な活用ができたか。
	評価	２年生は１年次に続き、毎週月曜日に数学小テスト、水曜日に英単語テストを定期的に行い基礎基本の定着に努めるとともに、金曜日に数学希望者補講をはじめ、応用力の育成にも取り組むことができた。学習指導係としては、タブレット端末によって授業や探究活動における ICT の活用を充実させることができた。個々のスライド作成など含めプレゼンテーション力が劇的に進化させることができた。	
	Ⅰ	自己管理能力および探究心の育成（教）	・　自律的な学習習慣および生徒自らが意欲的に学べるための支援をすることができたか。
	評価	２年生は考査前２週間から家庭学習徹底週間とし、家庭学習記録表・ﾀｲﾑﾗｲﾝﾏｰｶｰを実施し、家庭学習の意識付けをはかることができたが、家庭学習の習慣化は今後も引き続き取り組むべき課題である。３年生は学習室、自習室の活用、朝補習の活用などで朝から学習に取り組む姿勢、集団で学習に取り組むことを学年全体で呼びかけ取り組むことができた。学習指導係としては、各教科において、授業をはじめ、課題や英単語テストなどを実施することで自律的な学習習慣を養うための支援ができた。また、各学年における探究活動を通して生徒自らが課題解決に向けて主体的に取り組む力を醸成することができた。	
	Ⅰ	授業以外での支援（教）（生）	・　生徒の学習状況に応じた補習や教材・授業の配信を研究・計画し、生徒にとって意義のある補習や家庭学習の支援ができたか。
	評価	２年生は生徒の学習状況に応じ、不振者補習、定期考査の追試等の対応を行うことができた。配信教材（スタサプなど）の活用によりタブレットの有効活用を進めることができた。３年生は英語の朝補習や放課後の社会、情報の補習、前期・後期の特編などで生徒の学習支援を行うことができた。また、最後まで SHR を使っての英語小テスト、授業内での小テストに取り組ませることができた。学習指導係としては、朝、懇談期間、夏季休業中に実施した補習、３年生対象の特編授業など生徒の状況や希望に沿って実施し支援することができた。スタディサプリを推奨し教材の配信や解説動画の周知を行うことができた。	
進路指導	Ⅰ	学年や教科間の連携および３年間の連続性（教）	・　学年間および教科・全職員の情報交換を密にし、その上で３年間の進路指導の継続性をはかることができたか。
	評価	２年生は２年次に情報の授業がないことから、配信教材の活用や定期考査・模試の受験科目に設定して来年度に継続する取り組みを行うことができた。３年生は各教科においての学習指	

		導、課題設定、補習・特編などの取り組みなどが他学年の担当者間で連携がまだ足りないところがあり今後の課題である。進路指導係としては、昨年度までの取り組みを踏まえ、継続性を持った進路指導計画を策定し、指導にあたることができた。１年次の進路研修旅行は、大学見学の校数を増やし、翌日に見学の振返りを共有する形とした。２年次は夢ナビ動画サービスを活用した大学・学問調べの機会を拡充した。活用２年目にあたるスタディサプリでは国・数・英に情報を加えた取り組み強化期間を設定し、活用を促進することができた。新課程初年度の３学年については、学年会や職員会議、進路報告会等の校内研修会を通して職員間で情報共有を行いながら支援することができた。一方で、１年次前半の進路指導計画では、進路実現のベースとなる自己理解のさらなる深化に向け、適性検査、面談に加え、他者理解やグループワークなど活動する機会を増やしていきたい。	
	Ⅰ	面談や通信を介しての支援（教）（生）	・ 集団および生徒個々の実態を把握し、希望実現に向けて定期的な情報提供やアドバイスができたか。
	評価	１年生は進路通信・学年通信・保護者懇談会などにより情報の共有化を図ることができた。 ２年生は定期的な個人面談、学期ごとの振り返りを通して、きめ細やかな生徒支援に努めた。また、学年通信、進路通信などを定期的に発行し、必要な情報を的確に提供することを心掛けることができた。３年生は生徒、保護者との４、５回の面談を通して進路希望の確認、実現のための相談などを実施し受験準備を進めさせた。昨年度に引き続き、年度初めや科目選択のための LHR や個人面談、保護者面談の機会を通じて、生徒個々の実態把握に努めることができた。各学年発行の進路指導通信や学年通信による情報提供を行うことができた。２学年を対象に進路指導用のホームページを作成した。情報更新の頻度を改善し、有益なツールとなるよう改善を図っていく。	
	Ⅰ	外部講師や卒業生による講演・ワークショップの充実（教）（生）	・ 生徒がより具体的に自らの進路を考え、行動するきっかけとなるように、講師の人選と実施のタイミングを考慮できたか。
	評価	２年生は３年間の進路計画に基づいて進路講話や夢ナビライブへの参加などの企画しすすめることができた。３年生は夏休み明けの卒業生進路講演会で生徒の進路実現や学習への取り組みで刺激を与えることができた。学年ごとに大学関係の講師や卒業生を招いた進路講演会、信大・諏訪理科大の理系学生とのワークショップを行った。昨年度より実施頻度を増やすことができた。１学年で実施した進路講話では、進路指導係が講師を務めた。生徒の実情をとらえながら、実施タイミングを柔軟に設定することができた。この生徒振返りを受け、３月には学習に方法に関する講演会を外部講師に依頼し、実施する予定となっている。	
	Ⅰ	キャリア教育と進路実現（教）	・ 職業体験や職業研究を通して、自己理解や社会貢献まで見据えた将来の展望を持ち、その実現に向け進んで学習に取り組むための指導ができたか。
	評価	全学年を対象に看護体験・職業体験を実施した。探究の授業を通して自ら課題を設定し、その課題に取り組めるように指導することができた。１年生は、探究の学び方を学ぶことを中心に行った。学習の取り組みを工夫する勉強探究や自分の身近な出来事などを課題に設定し、一定期間その課題に取り組み、振り返りを行うことで探究の学習サイクルを学ぶことができた。 ２年生は、自分の興味・関心から課題を設定し、個人やグループを結成し積極的に取り組むことができた。クラスを越えて、１年間探究活動を行い、３月の発表会に向けて準備を進めることができた。「マイプロジェクトアワード 2024 長野県 Summit」では、３名の生徒のグループが県知事賞を受賞して全国大会に駒を進めることができた。３年生には、自身の探究活動と進路選択が関連付けられるように指導を行った。探究活動とキャリア教育の連携をさらに深めていくとともに、１年次の自己理解、学問・職業研究の機会をさらに充実させていく。	

学友会	Ⅲ	学友会・班活動等、生徒の自主活動への支援とその活性化（教）（生）	◎ 学友会活動・班活動を通して、自ら考え他者と協力して行動できるよう職員間で連携して支援できたか。
	評価	２年生は、３年生から学友会を引継ぎ、新学友会を発足する支援を的確に行うことができた。学友会係として、生徒が班活動に進んで取り組めるよう支援した。学友会役員の公約実現に向けての全校アンケートや結果のフィードバックを支援することができた。染谷祭に向けての準備、活動への支援を行った。生徒間および係職員間で話し合いの機会を多く持ち、行事や日々の学校生活に生徒の意見をなるべく反映できるよう努めた。生徒が自ら考え、異なる意見を調整して他者と協力して行動できるよう生徒の意思を尊重し、職員間で連携して支援にあたることができた。結果として「スマホルールづくり確認週間実施（9 月）」「SDGS キャンペーン実施（7 月）」「文化祭２日間で約 5000 人来校（7 月）」「各班活動の大活躍」等、各部署で自主的・積極的に活動を展開することができた。		
生徒支援	Ⅰ	生徒の生活習慣の確立（教）（生）	・ 生徒の基本的な生活習慣の確立につながるような支援を職員が行い、個々の生徒が高校生として基本的な生活習慣を身につけることができたか。
	評価	２年生は「凡事徹底」の学年目標をかかげ、挨拶、清掃、遅刻なく時間を守るなど基本的な生活習慣がおおむね達成できたと回答。生徒支援係としては、生活のきまり徹底週間、交通マナーを含む朝の登校指導等を実施し、遅刻者・マナー違反者がほとんどなしの良好な状況を保つことができていた。授業の開始、学校でのスマホの使用、登下校の時間などは守られており、概ね目標は達成できたのではないかと思っている。ただ、盗難被害が出てしまったり、SNS の使用で人間関係のトラブルにつながったケースもあり、安全安心な学校にするためには、学校の対策・注意喚起等をはじめとして、行うことはまだあると感じている。「自律」がさらに進むことを今後の課題として取り組んでいきたい。		
	Ⅰ Ⅳ	生徒理解を基盤とした生徒指導と相談体制の整備・充実（教）（生）	・ 一人一人の生徒の実態について、職員が理解し、適切な支援を行えたか。 ・ いじめの兆候を見逃さないなど、生徒の実態把握に努めることができたか。
	評価	年２回の生活実態アンケート実施で生徒理解に活かすとともに、いじめの兆候を見逃すことなく、生徒にとって安心な学校づくりに努めることができた。生徒相談室を利用した生徒が多く、様々な困難を抱えた生徒、家庭を複数の職員が関わり卒業、進路実現まで導くことができた。重大ないじめ事案がなくてよかったが、悩んだり、教室に入れない、転学、オーバードーズ等の事案が起こった。生徒からの相談対応、先生方の声掛け、管理職・相談係・担任・SSW のチーム対応、保護者との情報共有と同じ方針での対応が上手くいき、重大事案にならなかったケースがいくつもある。様々な人のお陰で、当初の目標はおおよそ達成できたと考えているが、悩みを抱えている、不登校傾向、人間関係につまずいている、自己肯定感を持てない等、解決をしていかなければいけない課題は沢山あると思っている。居場所やホッとできる場所つくり、保護者の心の余裕をつくるなど、安心を求めて今後も努力をしたい。		
	Ⅴ	交通安全マナーの育成	◎ 交通安全教室を実施するとともに、機会あるごとに交通安全の呼びかけ等を行い、特に自転車のマナーを向上させ、事故防止を図れたか。
	評価	機会あるごとに交通安全や交通マナーの意識向上を呼び掛け、大きな事故なく過ごすことができた。学友会の規律安全委員と協力して交通安全講話や立ち番指導等を実施した。講話はより身近な危険に着目し講話、立ち番指導では自転車マナーで守れていない事をポスターにしてわかりやすく注意をするなど工夫した取り組みを実施した。交通事故件数や地域からの要望は減少傾向にあり、今年度の目標は概ね達成できたと判断している。ただ、交通事故はゼロではな		

		いし、ヘルメットの着用も、半分に届かない着用率であるので、更に力を入れて取り組みたい。

＜学校運営＞

地域・保護者との連携	Ⅰ Ⅲ	学校 Web サイトによる情報発信 （教）（生）（保）（地）	◎　授業活動や PTA 活動および学友会や班活動の情報や成果を学校 Web サイトで紹介し、学校の様子を伝えることができたか。
	評価	配信頻度は高く、日々の活動を配信できた。次年度はレイアウト等の改善に取り組みたい。	
	Ⅲ	公開授業および体験入学の実施 （教）（生）（保）（地）	◎　公開授業、体験入学などを通して、保護者や地域住民・中学生などに、本校に対する関心を高めてもらうことができたか。
	評価	公開授業を５月と 10 月に実施し、中学生を中心に多くの参観者が来校した。７月の体験入学には 749 名、保護者・教員 190 名（昨年度は中学生 697 名、保護者・教員 174 名）と多くの中学生が参加。保護者向けの相談ブースも設け、進路相談会を行うことができた。地域の方々や中学生の本校に対する関心は強いので、今後もタイムリーに情報発信を行いたい。	
	Ⅰ	保護者への進路情報の提供 （教）（生）（保）	・　保護者が家庭で生徒の進路を考えることにつながるような情報提供ができたか。
	評価	各学年とも学年通信・進路通信・重要情報のオクレンジャー送信などにより家庭への情報提供を図ってきた。保護者懇談会でも情報共有や理解を図った。３年生は学年ＨＰでも情報の共有を図った。今後もオクレンジャーの配信等を通じて的確な情報提供を努力していきたい。	
研修	Ⅰ	校内研修の推進（教）	◎　授業方法や ICT の活用等に関する研修会を実施し、授業改善並びに生徒の学習支援に役立てることができたか。
	評価	ICT 係の主導で GIGA スクールサポーターを講師に校内研修会を実施した。また、ICT を活用した授業は定着してきている。進路指導にも ICT を活用し、各学年担任団で取り組むことができた。次年度以降も、授業改善や生徒の学習支援のための研修会を実施する。	
施設・設備	Ⅲ	校内美化の徹底（教）（生）（保）（地）	・　生徒の清掃活動を適切に指導し、環境保全の意識を高めることができたか。
	評価	各学年としては、教室は乾拭きによる雑巾がけ、廊下・階段は水拭きによる雑巾がけをして美化に努め、毎日の清掃の徹底をおおむね進めることができた。整美係としては、通常の清掃活動、大掃除などの徹底により、環境整美を図ることができたが、日常のロッカー周りの整美には課題が残った。清掃用具等の点検・補充を行い、生徒会整美委員会とも協力して整美環境を向上させることができた。またゴミの分別にも重点を置き、その推進に努めることができた。さらに審査委員会と協力し、班室等の不要物の廃棄を促進することで生活環境の改善と整美意識の向上を行うことができた。	